

指導活用技術

分類名〔病害虫〕

指18	イチゴ・トマト灰色かび病のメパニピリムに対する感受性
-----	----------------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

県内のイチゴおよびトマトほ場で発生した灰色かび病について、メパニピリムに対する感受性を調査したところイチゴほ場において感受性低下菌が確認された。

普及対象：イチゴおよびトマト生産者 普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

メパニピリムはアニリノピリミジン系で、商品名「フルピカフロアブル」として生産現場で活用されているが、県内のイチゴおよびトマトほ場で発生した灰色かび病菌の感受性について調査したところ、イチゴほ場において感受性低下菌が確認されたので指導活用技術とする。

2 指導活用技術

- (1) イチゴ4ほ場のうち3ほ場で、メパニピリムに対する感受性低下菌が確認された(表1)
- (2) トマト5ほ場ではメパニピリムに対する感受性低下菌は確認されなかった(表2)。

表1 イチゴ灰色かび病のメパニピリムに対する感受性低下菌数(令和2年度)

採取地域	検定菌株数	感受性菌	感受性低下菌
石巻管内	2	1	1
登米管内	2	0	2

※採取地域は普及センター管内を示す

表2 トマト灰色かび病のメパニピリムに対する感受性低下菌数(令和2年度)

採取地域	検定菌株数	感受性菌	感受性低下菌
仙台管内	2	2	0
美里管内	1	1	0
亘理管内	2	2	0

※採取地域は普及センター管内を示す

3 利活用の留意点

- (1) 供試菌株はイチゴおよびトマトほ場で発生した罹病組織から灰色かび病を単菌糸分離したものである。
- (2) 検定方法は「植物病原菌の感受性検定マニュアルⅡ」に準じて行い、FGAペーパーディスク法で実施した。
- (3) メパニピリム（FRACコード9）の耐性リスクは中程度とされている。感受性低下菌の発生が懸念される薬剤については、薬剤散布後はほ場をよく観察し、薬剤の効果が低下していないかを確認するとともに、ローテーション散布により薬剤抵抗性の発達を防ぐ必要がある。

(問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話022-383-8133)

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

農作物有害動植物発生予察事業（令和2年度）

(2) 参考データ

イ 感受性の判定は「植物病原菌の薬剤感受性マニュアルⅡ」の基準に基づいて判定した(表3)。

表3 判定基準

判定基準	判定
3 ppmで生育しない	感受性菌
3 ppmで生育する	感受性低下菌

※薬剤無添加培地を作成し、コントロールとした

(3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

なし

ロ その他

なし

(4) 共同研究機関

なし